

山の日情報

(第 19 号)

平成30年9月20日

秋田県生活環境部
自然保護課

【活動記録】

9月15日に高松岳避難小屋において、ボランティアによる外壁の塗装作業を行いました。

作業には、横手高校山岳部及び増田高校登山部のほか、地元山岳会と湯沢市役所の方々、総勢29名が参加してくれました。

このメンバーは、昨年も虎毛山避難小屋の塗装作業を行っており、もはや素人集団ではありません。‘匠の技’と言ってよいほど、職人さながらの仕事をします。

まさしく「スーパーボランティア」です。

高松岳避難小屋は築29年が経過しており、老朽化が著しく、雨風が小屋内に入り込んでくる状態でしたが、まあ！なんてことでしょう！見違えるような避難小屋になりました。

【剥がれ落ちた外壁】

BEFORE



AFTER



【みすぼらしい外観】

BEFORE



AFTER





(ハシゴの魔術師たち)



(記念写真)

ボランティア事業は、平成 28 年に 8 月 11 日が「山の日」に制定されたことを記念して始めた事業です。

今年は 3 年目を迎えましたが、塗装作業を終えて登山口に戻ると、高校山岳部の顧問の先生から「来年は何をするんですか？」との言葉を掛けていただきました。

県では、ボランティア事業を毎年の恒例行事にしたいと考えているため、大変にうれしかったです。

秋田県内には自然保護課が建設した避難小屋が 17 箇所もあり、これを行政機関だけで維持管理していくことは困難です。避難小屋は山岳地での遭難防止のためにも非常に重要な施設であり、施設の維持管理には、高校山岳部や社会人山岳会のご協力が不可欠となっておりますので、今後もお力添えをくださいますようお願いいたします。

なお、今回の塗装作業では、塗料メーカーの大阪ガスケミカル様から、塗料の「キシラデコール(28ℓ)」を無償提供していただきました。ご支援、誠にありがとうございました。

(参加者の感想)

○私は昨年の虎毛山避難小屋塗装ボランティアに続いて、今回の高松岳避難小屋塗装ボランティアに参加した。

避難小屋の塗装は、ペンキなどの資材を持って登るだけでも苦労であり、更に避難小屋の塗装を行うとなると、とても大変な手間と労力が必要な作業であると感じられた。

自分たちが普段何気なく利用させてもらっている避難小屋だが、その整備の大変さをこのボランティア活動によって、身をもって知る良い機会となった。

また、避難小屋の整備だけではなく、登山道の整備等にも行政や自治体、地元山岳会の方々など、多くの方々が尽力されており、そういった方々の協力のおかげで私たちが普段安全に登山することが出来るのだと改めて認識することになった。

そして、このような活動における高校生等の「若い力」というものは非常に重要で大きな力になると思った。

機会があれば、今後またこのような活動にも積極的に参加していきたいと思う。

(横手高校山岳部 杉本翔真さん)